# 四小だより

令和６年　６月　２６日
府中市立府中第四小学校
校　長　　安 原　一 朗
No.４

## 保護者・地域の方々に見守られて

校長　安原　一朗

先日の「多磨っ子フェスティバル」には大勢の参観をいただきましてありがとうございました。今年度は、コロナ前に戻り、２年生以上がお店を出し、保護者の皆様にも制限なく参観していただきました。少し混み合っていた関係で、保護者の方々の出し物への参加は少なかったようでした。温かく見守っていただきありがとうございました。あちこちで上の学年の子供たちが低学年の児童に優しく案内する姿や、丁寧にやり方を教えるほほえましい姿が見られました。

さて、下の作文は、東京府中ロータリークラブ主催の『第５０回作文コンクール』で表彰された作品です。今年のテーマは「府中のまちのよさ」でした。〇〇〇〇さんの作品は地域の方々との交流や助け合いの様子が目に見えるようです。府中四小では、４年２組の〇〇〇〇さん、５年１組の〇〇〇〇さんもその作品が高く評価され、表彰されました。おめでとうございます。

### 地域の人は家族

府中第四小学校　６年１組　〇〇〇〇

「行ってらっしゃい。」「行ってきます。」

毎日交わすあいさつですが、これは家族と交わしたあいさつではありません。登校の時に、近所のおじさんやおばさんたちと交わしたあいさつです。ぼくは普段、地域の人などと当たり前のようにあいさつを交わしています。ですが、これは当たり前のことではなく、とても素晴らしいことなのだと知りました。

今回作文を書くにあたって、両親と一緒に府中市の良いところについて話をしました。その時に、すぐに両親から出てきたのが、地域の人とのつながりが強いと言う話でした。ぼくは正直、地域の人とあいさつをしたり、話をしたり、仲良くしたりするのは当たり前なのに何を言っているのだろう。と不思議に思いました。ですが、今までいろいろな場所で仕事をしてきたお父さんとお母さんが、「地域の人がこんなにあいさつをしてくれたり、下校中の子供たちを気にかけてくれる地域は今までなかった。」と話したのです。その話を聞いてぼくはびっくりしました。ぼくが今まで当たり前だと思っていたことが、府中市の素晴らしいところだったからです。

ぼくの家の近くには毎日道路の落ち葉を掃除してくれるおじさんがいます。登下校時には横断歩道で黄色い旗を持って、ぼくたちが交通事故に合わないように見守ってくれているおじさんがいます。すれ違えば、

「〇〇くん、元気？」

と声をかけてくれるおばさんがいます。

お父さんが仕事でいない日に大雪が降りました。その時も近所のおじさんたちが家の前や家から通りに続く階段の雪かきをしてくれました。

きっとこの先もぼくが困っていたら、近所の人たちはぼくを助けてくれるし、ぼくも困ってる人がいれば力になろうと思います。

この作文を書いていて、なんだか、「地域の人は家族」みたいだなと思い、胸がポカポカしました。